

「富貴紙」をもっと知って、 もっと利用してみませんか？

問合せ 音別町行政センター地域振興課地域振興担当 (☎01547-6-2231)

大ブキは音別地域の特産品

アイヌ語で「フキの下の人」の意味を持つコロポックルの伝説。その伝説の舞台は、音別地域の霧里地区周辺だと考えられています。周辺には大ブキが群生し、直径10センチ、高さ2メートルにもなります。大ブキは、切り倒した瞬間に茎からフキ水がほとばしり、その太さにもかかわらず柔らかくてシャキシャキとした食感と爽やかな香りが広がるのが特徴です。



廃物の有効利用を目的に開発された「富貴紙」

フキ加工品の製造過程で捨てられていた大量のフキ皮の活用方法を探る中で、フキ皮は良質なパルプを含んでいることが判明しました。紙漉きの方法、設備の改良等の研究を重ねた結果、音別の清らかな水をたっぷり使った「流し漉き」という方法によって、フキ皮の落ち着いた色合いの繊維が浮かぶ、これまでにない風合いの和紙が誕生しました。現在でも、フキ皮を使って作られる手漉き和紙は日本でも音別地域でしか作られていません。この富貴紙は、音別小・中学校の卒業証書として使われています。



▲富貴紙の卒業証書

コーチャンフォー釧路店で試験販売を行っています

市では、音別地域の特産品である「富貴紙」の価値向上と普及促進を目的に、株式会社リライアブルの協力を得て、コーチャンフォー釧路店（春採7-1-24）で8月20日(日)まで市場調査を兼ねた試験販売を行っています。



▲店内に設置しているアンケートにご協力ください

店内に富貴紙コーナーを設け、はがきや名刺、ランプシェードなどを展示してさまざまな活用方法を紹介しています。試験販売する富貴紙は、A3判で、色合い、模様や厚さの異なる数種類を取りそろえています。価格は、賞状、はがきなどに用いる厚めの紙が1枚800円(税別)、切り絵や工作、書道などに用いる薄めの紙が1枚500円(税別)です。富貴紙は手漉きなので、一つとして同じ模様はありません。自分好みの1枚を見つけてみませんか？

特産のフキを使った新たな活動が始まりました

住民の皆さんが主体となって特産品のフキを使って地域の雇用を創出しようと「音別ふき露団」が結成されました。代表理事の伊藤まりさんにその活動の内容等を伺いました。



▲伊藤まりさん



▲無料試食会が好評でした

「音別ふき露団は、5月10日に一般社団法人として認可されました。メンバーは音別地域に住む5人です。昨年の台風などによりフキ資源の枯渇が心配されているため、フキの栽培を始めました。将来的には生産・加工・販売までを手掛け、雇用の場を創出したいと考えています。初めての取り組みとして、6月に開催された『北のビーナス露まつり』で、フキ料理の試食会や、フキとの関わりについてのアンケートなどを行いました。今後は、無農薬でのフキの生産を軌道に乗せ、販売ルートを確認させるだけでなく、雇用の場を作り、音別町が元気な地域になれるよう活動していきたいと思っております」

フキ紙作りを体験してみませんか？

フキの繊維と和紙の原料である「楮」を使ったフキ紙作りに挑戦できます。試験販売している「富貴紙」とはフキの繊維と楮の配分は違いますが、本格的な「ふき紙漉き」を体験できます。

場所 音別町体験学習センター「こころみ」
(音別町音別原野基線138-46)

運営時間 午前8時50分～午後5時20分(月曜日を除く)

利用人数 5人以上15人まで(5人未満は要相談)

料金 1人670円(10月1日～5月31日は暖房料120円加算)※日帰りの場合

所要時間 2時間30分

問合せ 音別町体験学習センター「こころみ」
(☎01547-6-9000)

これが最後のお知らせです！

臨時福祉給付金の締め切り迫る！

申請期限が8月4日(金)となっていますので、まだ申請されていない方は、期限内の申請をお願いします。締め切りを過ぎますと給付金は支給されません。

- 申請方法 原則、申請書は同封の返信用封筒にて提出してください。
- 申請期限 8月4日(金)(郵送の場合は当日消印有効)
- 持参の場合 市役所防災庁舎1階特設窓口、阿寒町・音別町行政センター市民課(午前9時から午後5時。土・日曜日、祝日は除く)

問合せ

●給付金の支給に関すること
市役所臨時・特例給付金対策室(☎31-4500)
午前8時50分～午後5時20分(土・日曜日、祝日は除く)

●給付金の制度に関すること
厚生労働省専用ダイヤル(☎0570-037-192)午前9時～午後6時

確認しや！



長期滞在(ちょっと暮らし) 6年連続で北海道1位になりました！

問合せ くしろ長期滞在ビジネス研究会事務局
(市役所市民協働推進課内☎31-4538)

涼しい釧路で避暑生活をされる方々が増え、冬の「花粉ゼロツアー」の人気も高まり、平成28年度の長期滞在者数は1,311人を数えました(延べ滞在日数は22,105日)。

滞在された方々からは、「涼しさが何よりのごちそう」との声の他、「市民の皆さんがとても温かく接してくれた」との喜びの声をたくさんいただいています。

これからも、長期滞在者の方々に、より一層「くしろファン」になっていただけるようなおもてなしをしていきましょう。

